

令和 8 年度 県立牛久栄進高等学校自己評価表

目指す学校像	変化の激しい社会環境に柔軟に対応しつつ、多様性を尊重し、新しい価値を創造するために必要な自主自律の態度と豊かな人間性を身につけた、創造性豊かな人財を育てる学校。		
	三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・広範な知識、優れた技能、広い視野に立つ判断力を備え、各分野・領域において多様な人々と協働し、自ら問いをたて、課題を見つけ、暮らしやすい社会の創造に寄与するために常に学び続ける人財を育成する。 ・適切な自己表現かつ自己開示ができ、良好な人間関係の構築を目指す人財を育成する。 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制高校として、多様な興味・関心に対応した多様な科目選択が可能な教育課程を編成し、生徒一人一人のニーズを大切にする学習支援を実施する。 ・主体的な工夫や改善を通して知識・技能を習得し、その過程で培われた見方・考え方を活用しながら、自然や社会、人間、衣食住、健康、スポーツ、文化・芸術、地域に関する深い洞察力や判断力、根拠に基づいて説明する力を育成する学びを推進する。 	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心が豊かで、自分の興味・関心を追求するとともに、他者の存在を尊重する生徒 ・学校内外での様々な活動に積極的に参加し、自らの目標や夢を設定するとともに、自己実現の達成のために努力する生徒 ・学び続けることで習得する知見や技術を未来の社会に役立てる意欲がある生徒 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
「活力ある進学校づくりー単位制のメリットを生かし、主体的に学習する生徒の育成ー」を一貫して組織目標として継承、「活力ある進学校」、「個に応じた学習指導」、「自主独立の人づくり」を中期的目標として、教職員と生徒との信頼関係をもとに学校全体が一つになって取り組んできた。その結果、全国の国公立大学、私立大学等への進学者を多数輩出することができた。生徒一人一人の進路希望実現に向け、単位制の特長を最大限に生かして、きめ細かな教科指導・進路指導に取り組んできた結果と考えられる。これは、単位制改編後の飛躍的な進路実績の躍進を評価するとともに、今後も単位制の特性を生かした様々な取組みを積極的に推し進め、生徒一	教科指導 ー主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業展開ー	<p>ア 学習指導要領に対応した単位制のメリットを生かす教育課程の編成、及び主体的・対話的で深い学びの実現を目指した質の高い授業の展開により、生徒の学力向上を図る。</p> <p>イ カリキュラムマネジメントの視点から、教科横断的な学びを推進するとともに、教員の協働体制を構築し、「チーム栄進」として学習指導要領に対応した教育活動を実践する。</p> <p>ウ 観点別評価についての研修を実施し、評価のベースを作る。教科内におけるコンセンサスを獲得する。</p>	
	特別活動 ー積極的な活動参画の促進ー	<p>ア 生徒会活動、部活動、学校行事等を通して自主的精神と行動力を培い、より良い人間関係の形成を図る。</p> <p>イ 全ての特別活動において自己理解を深め、生徒が自己の長所を生かし、自己肯定感を得られるようにする。</p>	

別紙様式 2 (高)

<p>一人一人の進路希望を実現していきたい。 また、面談や定期的なアンケート、保護者との密接な連携等をとおして、生徒理解に努め、充実した学校生活を送れるよう支援する。そして、規範意識を高める教育を継続して進めるとともに、豊かな心を育てる教育や安全・防災教育にも力を注いでいく。さらには、ICT 教育など社会の変化に対応した教育環境づくりに取り組み、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を積極的に支援していく。</p>		<p>ウ 生徒同士、教職員と生徒が相互に他者を尊重して学校行事等に参加し、活力ある学校づくりを推進する。</p>	
	<p>生徒支援・教育相談 －良識ある行動をとり、自己表現が適切にできる生徒の育成－</p>	<p>ア 成人年齢の 18 歳への引き下げを視野に入れ、学校生活全般において生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、社会の一員としての自覚をもった自律的で協調性のある生徒を育てる。 イ 他者を思いやり、尊重する態度を養い、生命の尊さを認識させるとともに、安全教育を重んじて生徒の危機察知及び危機回避能力を高め、事故やいじめの未然防止に努める。 ウ 良好な人間関係の構築と適切な自己表現・自己開示ができる生徒を育てる。</p>	
	<p>進路支援 －生徒一人一人の進路希望の実現を目指した丁寧な指導－</p>	<p>ア 教員一人一人が進路指導力を高め、生徒の進路希望を高い次元で実現できるよう研鑽に努める。 イ 各年次や各教科と「進路支援部」が連携し、保護者も含めて生徒に対し、適切な情報提供・及び面談・学習指導の充実を図る。</p>	
	<p>国際理解教育の推進 －国際交流と海外派遣－</p>	<p>ア 国際交流事業を通じて視野を広め、世界各国の文化への理解を深めることでグローバルな感覚を養い、グローバル社会で活躍する人材を育成する。 イ 海外派遣等を実施し、実体験をとおして自国文化の理解を深め、異文化に対する理解を深め尊重する精神を育てる。</p>	
	<p>保護者及び地域社会との連携 －地域に開かれた学校づくりの推進－</p>	<p>ア 学校 HP や各種メディアを活用し、本校の教育活動や学校情報を積極的に発信し、広報活動に努める。 イ 保護者と学校が連携を密にすることで、生徒の健全育成と進路希望の実現に向けて協働、支援する。 ウ 学校説明会や各種説明会、中学校訪問をとおして、中学生や地域社会から本校への理解を深めてもらう。 エ 地域活動等に積極的に参加して、地域とのさらなる連携強化を図り、地域社会から信頼される学校づくりに努める。</p>	
<p>学びがいのある環境・働きがいのある職場づくり －環境整備と働き方改革の推進－</p>	<p>ア 国や県の施策を踏まえ、教職員が同僚性を尊重し、教育の質の向上のために働き方改革を推進する。 イ 事務室との連携を強化し、生徒の学習環境、職員の働く環境をハード面・ソフト面で整備する。 ウ 危機管理に対する意識を高めるとともに整理整頓と清掃を心がけて、学びやすく働きやすい職場環境を構築する。 エ 教職員のコンプライアンス意識を高め、全ての生徒と教職員が安心安全な学校生活を送れるように努める。</p>		

別紙様式 2 (高)

		授業改善 －授業改善からみる授業満足度の向上－	ア 教員一人一人が授業の目標や課題を明確に設定して指導法を工夫する等、常に授業改善に努める。 イ 教員一人一人が生徒の学習実態を把握し、生徒のニーズに応じた助言・指導で、生徒の疑問に適切に対応する。 ウ 教員一人一人が授業を通して生徒に知識・技能を身に付けさせ、生徒の思考力や考察力、表現力を育てる。 エ 上記のア～ウにより、学校全体の授業満足度 (KPI) の評価平均として 3.5 を目指す。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度 (学期) への主な課題		
教科指導	自ら考え学ぶ姿勢の育成と確かな学力を身につけさせるための工夫改善に努める。	生徒が自ら課題を設定し、主体的に探究する姿勢を育成するため、思考力・判断力・表現力を問う授業や知識・技能を活用する授業への転換を図る。 生徒が目的意識をもって自主的、意欲的、継続的に学習する態度を育成するため、各教科、各年次における週末課題や、生活・学習の記録「進路手帳」等の活用について連携する。				
	学習指導法の改善に努める。	生徒一人一人の能力・進路に応じて、少人数授業・T T 授業・小テスト・学力向上ゼミ等を実施する。また、3年間を見通した指導計画に基づき、指導法や教材の選択などを工夫・研究する。				
	観点別学習指導及び観点別学習状況評価の研究に努める。	観点別学習指導の趣旨を生かした、豊かな内容ときめの細かな学習指導の研究に努め、観点別学習状況の評価について研究を進める。				
	国語	主体的で対話的な深い学びを実現するための指導の充実を図る。	科目担当者間の連携を密にし、相互に指導方法を研究し合うなど、学習指導の充実を図る。 I C T 機器を効果的に活用しつつ、その単元に応じた生徒主体の授業を展開する。また、探究的な活動や話し合い活動などの学習活動を積極的に取り入れ、論理的な思考力と表現力の育成に努める。			
教科	観点別学習状況評価の研究に努め、指導の充実と計画的な授業実施を図る。	単元ごとに指導内容・評価基準を研究し、指導と評価を一体化させた計画的な授業の実施に努める。単元ごとに伸ばしたい力と評価基準を明確化し、科目担当者間で共有しながら指導にあたるよう努める。				
	授業満足度 (KPI) 3.5 以上を目指す。	ねらいと計画を明確に示した上で、その意義を生徒自身が考え、進路目標の実現のために主体的に学習できるよう支援する体制づくりを行う。				
	地歴 公民	生徒の基礎学力向上を目指した授業の工夫を行う。	小テストなどを適宜実施して、基礎的・基本的事項の定着を図る。また、視聴覚教材や ICT 機器の活用などを通じて、授業内容の充実を図る。			
	多面的なものの見方と思考力の育成を図る。	科目担当者間の連携を密にして情報交換を行うとともに、史料や各種統計資料の積極的活用、テーマ学習への取り組みなどをおし、社会的・歴史的・地理的事象に対する主体的分析力・考察力を涵養することを目標とする。				
	授業満足度 (KPI) 3.5 以上を目指す授業改善に努める。	問い等を通して授業や単元の見通しを持たせるとともに、生徒の疑問を授業で取り上げ考えさせるような双方向の授業を行う。また、生徒の躓きを見出し支援につなげられるよう				

別紙様式 2 (高)

			<p>考查問題を工夫する。</p>				
数学	<p>学力の向上を目指した指導を充実する。</p>	<p>課題提出や小テストを定期的に行い、学習習慣の確立を図る。</p>	<p>課題提出や小テストを定期的に行い、学習習慣の確立を図る。</p>				
		<p>教員間の連携を密にし、授業の進め方や ICT の利用に関する知識の共有、生徒の学力・論理的思考力の定着度合の分析を行い、課題を明確にして指導に生かす。</p>					
	<p>生徒が自主的・自律的に学びにむかう姿勢を育む授業の充実を図る。</p>	<p>課題提出や小テストを定期的に行い、学習習慣の確立を図る。</p>	<p>相互の授業見学を実施し、探究的な活動を取り入れた指導技術の研鑽を図る。</p>				
		<p>すべての講座において授業満足度 (KPI) 3.5 以上を目指す。</p>	<p>目標を明確化した授業を展開することで見通しを立てて計画的に学習できるようにする。演習の時間を活用し、疑問の解決を支援するなど適切なアドバイスを行う。</p>				
理科	<p>日常の授業を通じて科学的な観察力・思考力を育成する。</p>	<p>日常の授業を通じて科学的な観察力・思考力を育成する。</p>					
	<p>基礎学力の定着を図り、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。</p>	<p>教科書を中心に基礎学力の徹底的な育成を目指しつつ、3年間での授業を意識して各年次に必要な課題や実験を明確にする。ICT を活用し、リフレクションなどを授業に取り入れることによって、継続して主体的に学習に取り組む姿勢を育む。</p>					
	<p>授業満足度 (KPI) 3.5 以上を目指す。</p>	<p>授業計画を立案し、演習の時間や生徒が主体的に学ぶ時間を確保する。生徒の理解度を適切に把握し、必要に応じて個別指導を行い、満足度を高める。</p>					
保健 体育	<p>授業内容の充実を図る。</p>	<p>生徒の体力向上及び個人技術の段階的な向上を図り、ゲームを工夫する。(体育) ICT 教材を積極的に活用した授業を展開し、健康の保持・増進のための実践的な能力を育成する。(保健)</p>					
	<p>体育授業における事故防止に努める。</p>	<p>準備運動の徹底を図り、安全・健康に留意して行動する態度を育てる。施設・設備の安全確認を励行し、事故防止に努める。</p>					
	<p>授業満足度 (KPI) 3.5 以上を目指す。</p>	<p>生徒の疑問に応じ適切なアドバイスをするなど、個別指導を充実させるなどして Coaching の改善に努める。</p>					
芸術	<p>基礎の確実な定着を図り、創造的な活動を充実させることで、豊かな表現力を育てる。</p>	<p>個に寄り添い、その特性の伸長のための丁寧な指導を目指す。</p>	<p>芸術の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を育成する。</p>				
		<p>生徒一人一人が、実践的・体験的な諸活動に主体的に取り組むことにより、自己肯定感を高め、芸術を愛好する心情を養う。</p>	<p>自己のイメージを大切に、主体的な表現ができるような機会を充実させ、互いに認め合い学び合う授業を展開する。</p>				
	<p>生活や社会の中の芸術や芸術文化との関わりを持てるよう授業を工夫し、さまざまなジャンルの音楽会・展覧会を紹介し、鑑賞の能力や創造性を伸ばす。</p>						

別紙様式 2 (高)

		すべての講座において授業満足度 (KPI) 3.7 以上を目指す。	生徒の実態に寄り添い、個性と科目の特色を活かした授業を展開し、知的好奇心を引き出す授業実践を目指す。			
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力の向上を図る。		最新の情報を取り入れながら興味・関心のもてる教材を取り入れ、理解しやすい授業を工夫し展開する。			
			実験・実習・視覚教材などの体験学習を多く取り入れ、ノート提出や課題など点検を通して学習態度の育成を図る。			
	作品の完成・提出により達成感を持たせる。		実験・実習などをとおして各種技能・知識の向上を図る。			
	授業満足度 (KPI) 3.5 以上を目指す。		授業を理解しやすく工夫し、考えを深める事が出来るように授業を展開する。			
英語	英語力を向上させる。		教科書の予習・復習を軸とした学習を徹底し、教材や指導法を精査して授業内容を工夫することで、4 技能をバランスよく伸ばす。			
			CEFR に基づく到達目標を設定し、1 年次は A1～A2、2 年次は A2～B1 レベルの力の定着を図るとともに、英語検定 (1 年次準 2 級、2 年次 2 級) の合格を目指す。			
	自立的・自律的に学びに向かう生徒を育成する授業の実現を目指す。		定期的な授業研究を通して指導技術の向上を図るとともに、年次内・年次間の連携を強化し、教材や指導法の共有・改善を進める。			
	授業満足度 (KPI) 3.5 以上を目指す。		学習目標と見通しを明確にした授業を展開し、生徒が主体的に理解を深められるよう発問や活動を工夫するとともに、適切な助言により疑問の解消を図る。			
情報	生徒の問題解決能力の育成を図る。		身近な話題を学習課題に採用することで生徒の関心を喚起し、情報の収集・整理・発信にわたる実践的な活動を通じて、確かな情報活用能力を育成する。			
			情報モラルやセキュリティの重要性を踏まえ、情報機器やネットワークを安全かつ適切に利用するための判断力と、情報社会における責任ある態度を養う。			
	授業実践力の向上を図る。		校外研修へ主体的に参画し、先進的な実践事例から得た知見を自校の教育活動に反映・還元できるよう努める。			
	授業満足度 (KPI) 3.5 以上を目指す		学習方法や課題設計を不断に見直し、生徒の学習意欲を喚起するとともに、主体的な学びを促す環境を構築する。あわせて、Web サービスを効果的に運用して学習・実習内容のアクセシビリティを高め、時間や場所に縛られない自律的な学びを支援する。			
教 務	授業時間の確保		年間行事の精選・行事日程の見直しを進める。また、曜日変更・S 日課による曜日ごとの授業時間数を調整し、年間・定期考査間の授業時数の均一化をはかる。			
	観点別評価方法の改善 (指導と評価の一体化)		本校に適した観点別評価の在り方を検討し、生徒の学びを適切に評価できるようにするとともに、指導の改善へとつなげる。			
特別活動	生徒会活動のさらなる活発化を図る。		学校行事に積極的に参加させることで、委員会活動や HR 活動の活発化を図り、生徒が自主的に考えて行動できるようにし、より良い人間関係の形成を図る。			

別紙様式 2 (高)

	地域や社会への参画を促す。	生徒会組織を通じて、地域社会と連携したボランティア活動等に参画しやすい環境を醸成する。			
	活力ある学校作り	生徒会費の適正な運用、安全安心の学校行事の設定を基に活力ある学校づくりを推進することでより良い人間関係の形成を図る。			
生徒支援	成人年齢の 18 歳への引き下げを視野に入れ、学校生活全般に於いて生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、自律的で調和のとれた生徒を育てる。	全職員の共通理解のもと、服装指導や登下校時のマナー指導をあらゆる機会を通じて継続的に実施する。			
		交通安全運動やマナーアップキャンペーンにおいて、生徒の主体的な参加・活動を促す。			
	他者を尊重する態度を養い、生命の尊さを認識させるとともに、安全教育を重んじて生徒の危機察知及び危機回避能力を高め、事故やいじめの未然防止に努める。	通学路において、定期的に登下校指導を実施するとともに、危険箇所の把握、不審者遭遇等の情報提供を実施し、事故、被害の未然防止に努める。 HR、携帯マナー教室、交通安全講話、薬物乱用防止教室等の学校行事をとおして、自他の人権、生命の尊重及び危機管理意識を養う。いじめの問題の克服に向けては、計画的に未然防止・早期発見につとめる。			
教育相談	良好な人間関係の構築と適切な自己表現・自己開示ができる生徒を育てる。	生徒の自発的な活動を支援し、主体的に取り組む姿勢を育てる。			
	カウンセリングを実施し、心身のサポートを充実させる。	問題を抱える生徒の早期発見に努める。生徒のニーズの度合いに応じてケース会議、職員会議、あるいは職員研修を実施し、共通理解を深める。			
	特別支援教育の充実を図る。	特別な支援を必要とする生徒に対して、適切な支援を行う。			
進路支援	生徒一人一人の希望進路実現を支援する。	『栄進進路支援部ロードマップ』をより充実させ、栄進高校の進路支援の方向性を明示、教員間で共有し、生徒一人一人に応じた進路実現を支援する。			
	栄進生が目指すべきボリュームゾーン大学への進学実績を充実させるとともに、筑波大等の難関大への進学も支援する。	先進校視察、模試結果分析、「スタディーツアー・フォーラム」、授業改善プロジェクト等を実施し、将来を見通した生徒の進路選択の幅を広げ、上位の大学を目指す生徒の支援を図る。			
保健厚生	生徒自らによる心身の健康管理能力を養う。	疾病予防や早期発見のために健康診断と事後指導を確実にを行う。			
		心身の健康状態の把握に努め、健康相談、助言・指導を行う。			
	生徒の学校生活での福利厚生	日本スポーツ振興センターの事務取扱を円滑に行う。			

別紙様式2 (高)

	及び校舎内外の環境美化を計画的に推進する。	<p>購買での販売を円滑に行うための連絡を的確に行う。</p> <p>緊急避難体制を確立させ、不測の事態(地震・不審者等侵入時など)を想定した避難訓練を実施する。</p> <p>生徒が、各自の清掃分担区の清掃について責任をもって行えるよう、清掃監督は適宜支援する。</p>			
図書館	蔵書資料の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 授業での利用を意識した蔵書資料の拡充を行う。 生徒及び教員の購入希望図書を随時募り、時宜に合わせて購入していく。 新刊情報収集や小論文入試等のトレンド把握に努め、蔵書資料の充実を図る。 			
	図書館利用の増加を図り、生徒の学習活動の支援をする。	<p>読書や学習に必要な書籍の情報を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科などの教科や年次と連携して、図書館利用の活性化を図るとともに、読書推進期間を設け、図書貸出数の増加を図る。 蔵書点検を実施し、蔵書の把握と刷新に努める。 利用生徒のニーズに沿った開館時間を設定するとともに、読書スペースや学習室として安心して利用できる環境整備に努める。 Classroomを活用し、図書委員との打ち合わせなど効率化を図る。また、図書委員が図書館の運営に積極的にかかわることをとおして、生徒主体の図書館づくりを目指す。 			
渉外広報	会議・委員会を円滑に進める。	専門委員会の在り方について再検討するとともに、係分担を明確にし、円滑に運営できる体制づくりに努める。また、さまざまな面で業務の効率化を進める。			
	保護者が参加しやすい活動を展開する。	会員が参加しやすい研修や、興味ある内容を盛り込んだ講座を企画するために、各種委員会運営の方法を工夫する。			
	地域社会に対して本校教育活動の情報発信に努める。	見やすく分かりやすい学校パンフレットの構成の工夫、中学生にとって魅力的な学校説明会の開催などとおして、積極的に本校の情報発信やPRを行う。			
探究活動推進	生徒の探究スキル習得とその実現のための組織・システムを構築・改善・実施する。	課題設定から発表・評価までの活動を繰り返すことにより、課題設定・情報収集と分析・まとめと発表などのスキルを身につけさせる。			
		体験や協働を重ねることで知識や視野を広げ、課題の解決に向けた実践力を涵養する。特に地域と連携し、地域に愛着を持ってその発展に貢献しようという意識を育てる。			
		3年間の見通しを持って取り組むために、職員の意識やスキルの向上を図り、全職員で組織的に取り組む体制を構築する。			
1年次	希望する進路を実現するための精神的忍耐力や自己解決能力を高める。	日常生活で散在するストレスを除去するのではなく、それを乗り越えるための支援を心がけ、克服することで成長につなげる。			
		学習活動、部活動、学校行事などの場面で挑戦する姿勢で取り組ませ、多くの失敗を経験させ、成功につなげていくための解決能力を養う。			
	基礎学力の定着に必要な学習習慣を確立させる。	<p>予習・復習を徹底させ、授業に大切し、自ら学び考える姿勢を養う。</p> <p>週課題や小テストを計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。</p>			

別紙様式 2 (高)

	的確な情報提供・選択肢の提示、生徒自身による自己分析により、最適な進路選択ができるようにする。	大学・研究所訪問、職業観セミナー、LHR などを通じて、進路についての的確な情報提供・選択肢の提示を行う。 日々の学習活動やLHR を通して自分の適性や興味を的確に把握させ、生徒の自己分析と自己理解を促すことで最適な進路選択ができるようにする。			
2年次	基本的な生活習慣と学習習慣継続し、自ら学ぶ態度と基礎学力の定着を図る。	生徒が自らの考えを持って取り組める授業の展開と、授業を補完する計画的な課外学習を促進し、確かな基礎学力の定着を図る。 生活・学習・面談の記録の振り返りをとおして、生徒が自らの現状を把握することで、将来を見つめながら、自主的・計画的に学習する姿勢を育成する。			
	様々な進路活動をとおして、進路意識を高めるとともに、自らの進路設計ができるようにする。	各部学科研究・オープンキャンパス・その他進路行事を通じ、大学や仕事について知識を広め、進路意識を高めて、自ら探す姿勢が身につくように支援する。 小論文指導や志望理由書を作成する過程で、自己理解を深め、自ら進路設計を行う力を養う指導を行う。			
	特別活動や総合的な探究の時間をとおし、自己の在り方を見つめさせ、充実した高校生活の実現を図る。	自らの興味関心に基づいて探究活動を行い、自主的に学び態度を身につけられるように支援する。 修学旅行と事前・事後指導をとおして、協調性や連帯感を醸成する。			
3年次	学力向上を目指し、個々の生徒に合わせた学習・進路指導体制の充実を図る。	授業を中心とした学習習慣の確立に加え、自分で学力を伸ばすことができるように支援し、生徒自らが学びやすいような学習環境を整える。 難易度に応じた課外の実施などにより、生徒の能力に応じた演習の場を提供し、多様な進路実現を目指す。 保護者対象の進路研修会を実施し、進路および生徒情報の提供と共有に努める。			
	高校3年間の総括として、生徒が充実した学校生活を送り、下級生の模範となるように十分な支援を行う。	最高年次としての責任感を意識させ、学校行事や各種活動を通して、協調性とリーダーシップ、規範意識を育成する。 生徒との面談や保護者との連絡を密にして、生徒が抱える問題へのきめ細やかな対応を心がける。			

※ 評価規準：A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった